

# 東京都認知症対策推進会議 仕組み部会(第7回)

## 次 第

東京都庁第一本庁舎 3 3 階南側 特別会議室 S 5  
平成 2 1 年 2 月 2 7 日 (金) 午後 3 時 0 0 分から

### 1. 開 会

### 2. 議 題

- (1) 第 6 回仕組み部会及び第 5 回東京都認知症対策推進会議における議論のまとめ
- (2) 認知症地域資源ネットワークモデル事業の取組状況について
  - ・徘徊 SOS ネットワーク
  - ・家族会の現状及び支援策
- (3) 認知症支援拠点モデル事業の取組状況について

### 3. 閉 会

#### [配付資料]

東京都認知症対策推進会議 仕組み部会委員名簿

(資料 1) これまでの議論のまとめ

(資料 2) 練馬区における徘徊 SOS ネットワークの取組み

(資料 3) 家族会の現状及び支援について

(資料 4) 認知症支援拠点モデル事業の取組状況

「東京都認知症対策推進会議(仕組み部会)」委員名簿

◎部会長

区分	氏名	所属・役職名
学識経験者	下垣 光	日本社会事業大学社会福祉学部准教授
	永田 久美子	認知症介護研究・研修東京センター主任研究主幹
	◎林 大樹	一橋大学大学院社会学研究科教授
	元橋 一郎	弁護士 (神田お玉ヶ池法律事務所)
事業者	岡島 潤子	特定非営利活動法人東京都介護支援専門員研究協議会副理事長 (株式会社やさしい手 在宅サービス事業本部居宅介護支援事業部 部長)
代表家族	牧野 史子	特定非営利活動法人介護者サポートネットワークセンターアラジン理事長
行政関係者	井上 悟	中部総合精神保健福祉センター保健福祉部広報援助課長
	酒井 威	葛飾区福祉部高齢者支援課長
	横道 淳子	府中市福祉保健部高齢者支援課府中市地域包括支援センター包括マネジメント担当主査

各区分において50音順

(オブザーバー)	紙崎 修	認知症地域資源ネットワークモデル事業モデル地域代表 (練馬区福祉部参事(在宅支援課長事務取扱))
	二宮 勇	認知症地域資源ネットワークモデル事業モデル地域代表 (多摩市健康福祉部高齢支援課長)
	井上 信太郎	認知症支援拠点モデル事業補助事業者連絡会代表 (有限会社心のひろば代表取締役)
	森 一	認知症地域資源ネットワークモデル事業(練馬地区)委託事業者 (株式会社ピー・シー・イー東京本社技術部長)
	成瀬 恵宏	認知症地域資源ネットワークモデル事業(多摩地区)委託事業者 (株式会社都市設計工房代表取締役)

「東京都認知症対策推進会議(仕組み部会)」幹事名簿

氏名	所属
諏訪 彰弘	警視庁生活安全総務課生活安全対策管理官
坂本 博文	福祉保健局高齢社会対策部在宅支援課長

## これまでの議論のまとめ

### 第6回仕組み部会

#### 1 開催日時

平成20年11月18日（火）15：00から17：00

#### 2 検討内容

##### (1)認知症地域資源ネットワークモデル事業について

###### ○練馬区の地域資源マップの検討状況

- ・介護サービス事業者、高齢者やその家族を対象としたアンケートの実施結果
- ・得られた成果・配布予定等について

###### ○多摩市における徘徊 SOS ネットワークへの取組について

- ・多摩市における認知症による徘徊の現状
- ・徘徊 SOS ネットワーク構築のイメージ
- ・模擬訓練の実施

##### (2)認知症支援拠点モデル事業について

###### ○各モデル事業者の取組状況について

#### 3 主な意見

##### ○地域資源マップについて

- ・来年度以降については、作成費用等予算面の調整のうえ、地域の支援体制づくりのためのツールと情報提供手段としての役割の融合を図っていくことが課題
- ・早期支援につなげるためには、地域の人や見守りが必要な高齢者について地域包括支援センターや区市町村の主管課に相談しやすくなる様なマップであるとよい。

##### ○徘徊 SOS ネットワークの構築について

- ・徘徊についての緊急性の判断基準や保護された場合（特に長時間を要した場合）の状況について検討・分析する必要があるのではないか。
- ・ネットワークに即応性を求める場合、夜間・土日の休務日の対応等の体制整備が必要である。
- ・徘徊については行政区を越えて移動する場合があります、広域な視点から区市町村の果たすべき役割と都道府県の果たすべき役割を整理する必要がある。
- ・病院で保護されていたものの警察には情報が伝わらなかったケースがある。こういった機関の連携状況についても分析する必要がある。
- ・個人情報の取扱いについて、どこのエリアでも利用できる共通のフォーマットあるいは共通の仕組みづくりの検討が必要
- ・徘徊していると思われる高齢者を一般の人が発見したときの、援助の仕方や連絡・通報先を明確にする必要がある。

##### ○個人情報の取扱いについて

- ・関係機関への情報提供に関する家族の同意については、個人情報保護法上の意義はない。また、同意がとれない場合の事業遂行上の困難についても考慮するべきである。
- ・行方不明になった段階で危険は現実化しているため、個人情報保護法23条が適用され、ネットワーク間での第三者提供は可能と考えられる。
- ・実効性や個人情報保護法の趣旨から、都道府県レベルのデータベースを作成するために、事前に情報を収集することは困難であると解される。

### 第5回東京都認知症対策推進会議

#### 1 開催日時

平成21年2月4日（水）17：00から19：00

#### 2 報告内容

##### (1)地域資源ネットワークモデル事業について

###### ○多摩市における徘徊 SOS ネットワークへの取組

###### ○練馬区の地域資源マップ（暫定版）及び多摩市の地域資源マップ（確定版）の紹介

##### (2)認知症支援拠点モデル事業について

各モデル事業者の主な取組状況について報告

#### 3 推進会議委員からの主な意見

##### ○徘徊 SOS ネットワークについて

- ・実際の事例では、休みの日で相談窓口が機能していなかったケースがあり、夜間・土日の休務日の対応等の体制整備が今後の課題
- ・行政機関が夜間・休日に連絡を受けた際に、対策の立てられる部署に速やかに転送される様な体制になっていないと機能しない。
- ・家族はどこに助けを求めたらよいのか分からないのが現状である。行方不明になったときに家族がどうすればよいのかというノウハウが事前に分かるとよい。
- ・ケアマネジャーや警察などの関係者が24時間体制で情報を共有し、連携が図られると家族は安心できる。
- ・最初から完成しているネットワークはないので、試行を重ねて完成させていく必要がある。
- ・徘徊で保護された人のうち約3割は繰り返している人であり、また保護された人の家族の約5分の4は本人のデータを公的機関で共有することに同意しているというデータがある。データを生かして、危険率の高い人に対してネットワークが対応できる様に、ネットワークを効率化することが重要である。
- ・徘徊している人すべてが検索の対象になるのではなく、行方不明になりそうな人を対象とすることを明確にする必要がある。
- ・広い範囲で行動する人もいるので、広域のネットワークの構築について検討することが今後の課題

# 練馬区における徘徊SOSネットワークへの取組

## 練馬区の現状

### 1 練馬区における徘徊の発生件数

(1) 「認知症高齢者徘徊探索サービス」事業によるPHS探索システム※の利用実績

	登録者数	探索延べ回数
平成18年度	46	179
平成19年度	42	129
平成20年度	25	582

※所在地の連絡を受けて迎えに行くことができる家族・介護者がいることが条件

注) 平成20年度は、平成21年度1月末現在

(2) 施設から行方不明になった場合(下記2)の連絡件数

	連絡件数
平成18年度	12件
平成19年度	10件
平成20年度	11件

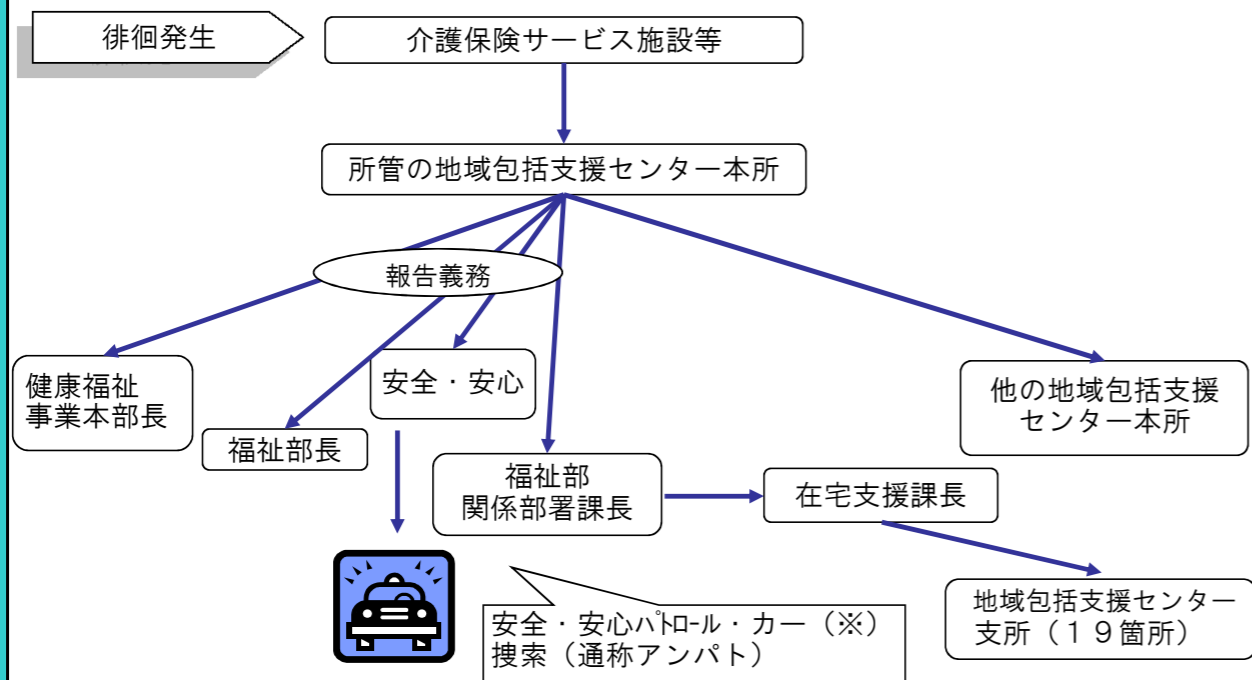
注) 平成20年度は、平成21年度1月末現在

**【参考】**

- 練馬区の65歳以上人口 約133,000人
- 高齢化率 19.0%
- 要介護認定者(※)のうち、
  - 認知症の日常生活自立度Ⅰ以上 77.8%
  - Ⅱ以上 48.6%

### 2 練馬区における体制

- 在宅から行方不明になった場合のネットワークは不存在
- 介護保険サービス施設等にて行方不明が発生した場合の連絡体制は下図のとおり

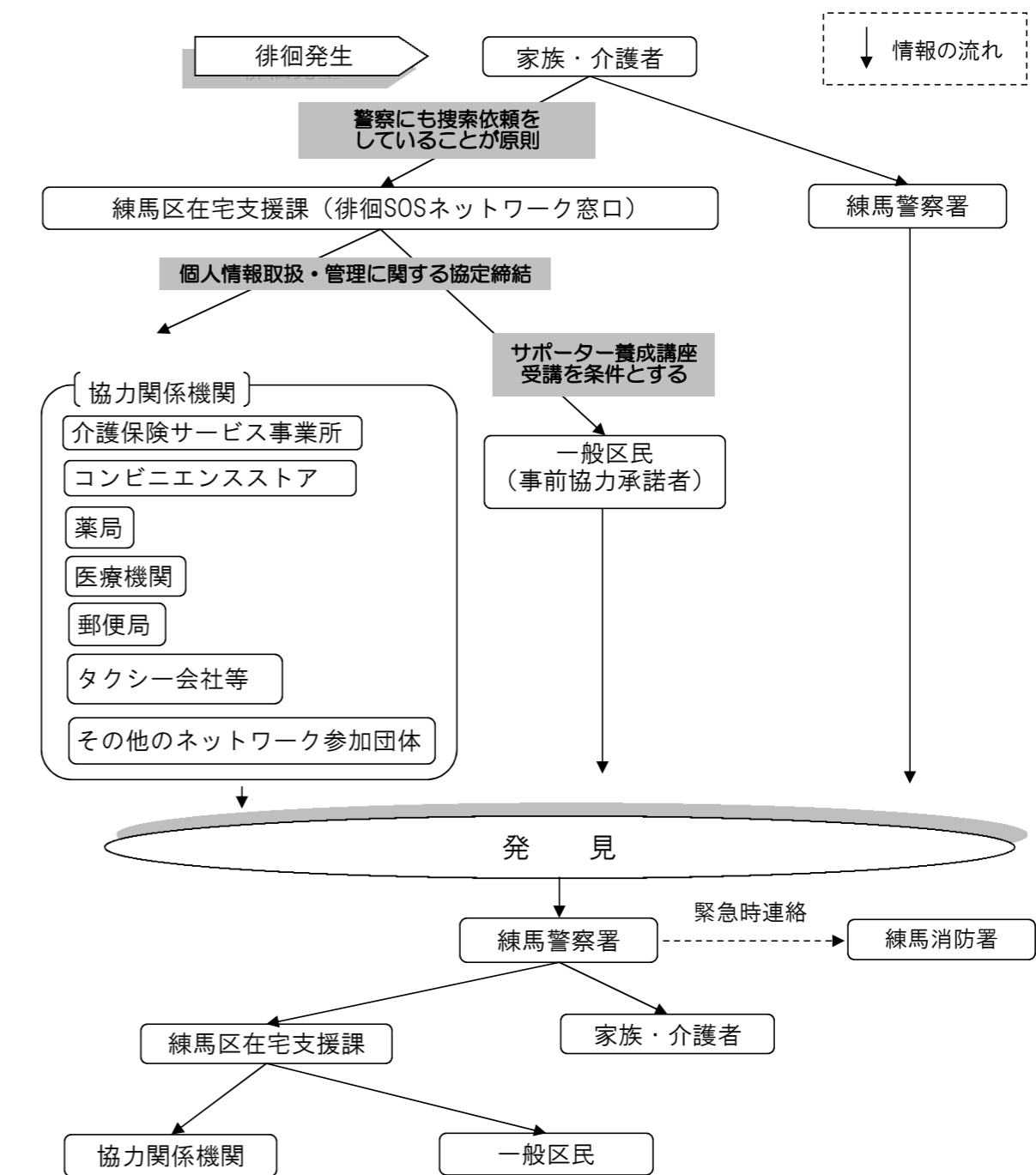


※平成16年より導入、区が警備会社に委託し専用の車両により区内を巡回

## 徘徊SOSネットワーク構築のイメージ

### 目的

練馬区が窓口となり、徘徊による行方不明者が発生したときに、行政機関内部や事前に協力を得た消防署、介護保険サービス事業者や医療機関、一般区民等に迅速・正確に必要な情報を配信し、日常業務・生活を通じた目配りによって行方不明者を早期に発見し、警察や家族への連絡、本人の保護が図られるネットワークを構築する。



## 模擬訓練について

### 徘徊SOSネットワーク模擬訓練（及び予備訓練）の概要

#### (1) 目的

徘徊SOSネットワークの構築に向けて、協力関係機関や一般区民等に捜索に必要な情報を配信し、①迅速・正確な送付・受信、②通常業務や生活のなかでの目配り、発見、声掛け及び連絡できるかを検証

#### (2) 実施方法

○模擬訓練への協力について事前に承諾を得た協力関係機関・一般区民等が参加

#### (3) 実施日時/地域

予備訓練：平成20年12月10日（水）10:00～12:30 / 練馬区中村・豊玉地区

#### (4) 主催

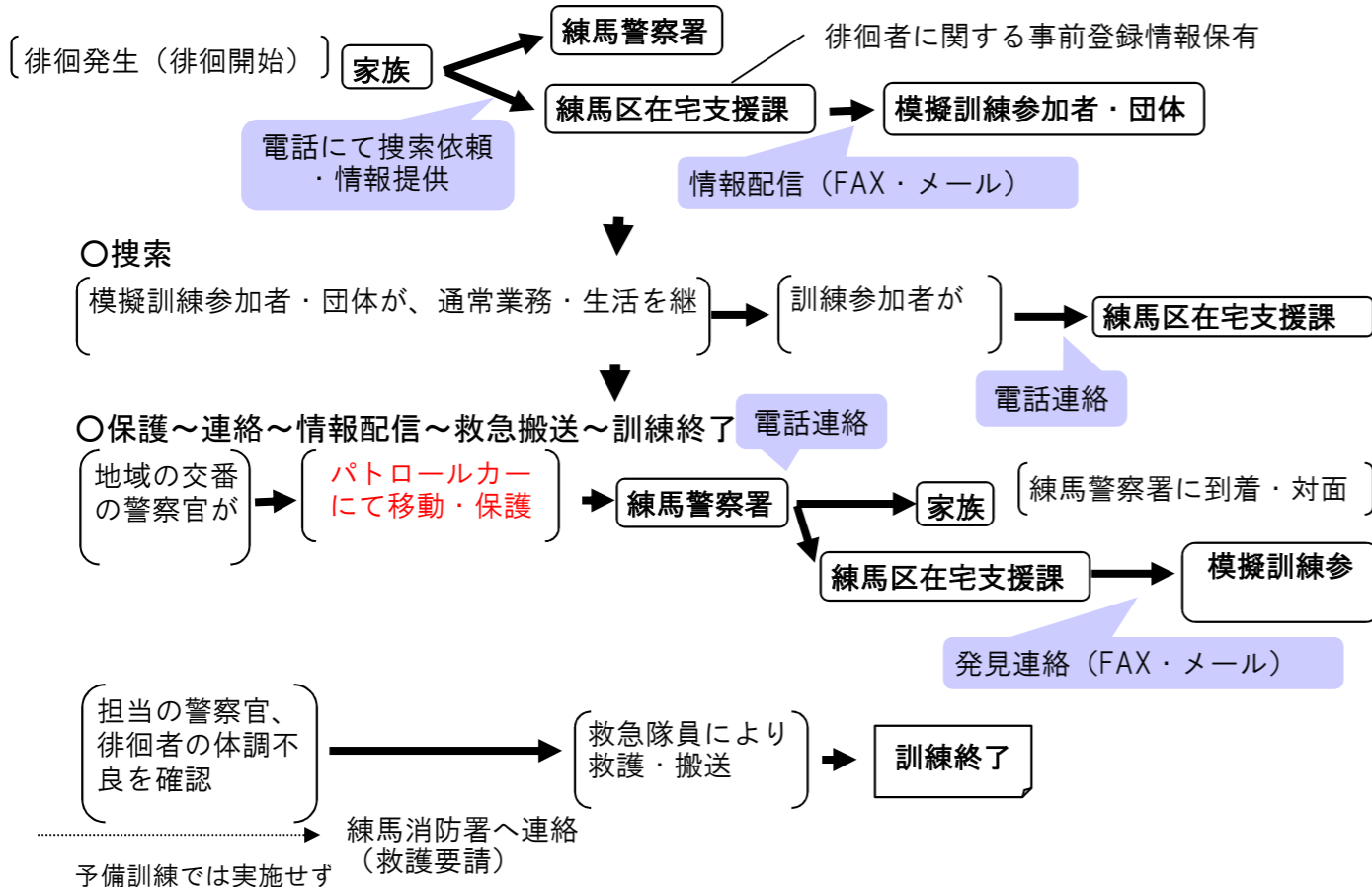
練馬区在宅支援課

#### (5) 模擬訓練参加者・団体

練馬警察署、練馬消防署、町会・自治会、老人クラブ、地域商店街、民生委員、介護保険サービス事業者代表者、認知症支援ワークショップ（※）参加者、**行政担当部署（練馬地域包括支援センター、豊玉保健相談所、安全・安心担当課）等** 約150名

#### (6) 実施内容

○徘徊発生～捜索依頼～情報配信



### 訓練（及び予備訓練）の検証

#### (1) 予備訓練実施時

##### ○発見・連絡

ネットワーク参加者の構成員である介護保険サービス事業者が発見・連絡

##### ○実施上の問題点・検討事項

（メール送信件数78件（不着7件）、FAX送信件数62件（不着7件））

・FAX送信に時間を要した点（不在の個人宅への送信等に時間を要し、送信終了までに90分。安心・安全パトロールカーに情報が到達する前に徘徊者発見・保護）

→送付先の優先順位についても検討が必要

・消防署との連携の検討（徘徊者が救護を要する場合の対応等を想定）

・メール不着数多いため、メール送信確認を行いながら再登録を実施

##### ○その他

訓練参加者が実際に徘徊している2名の高齢者を見守り・保護

#### (2) 模擬訓練実施時

##### ○発見・連絡

介護保険サービス事業者及び民生委員が発見・連絡

##### ○予備訓練を踏まえた解決・導入策

・民間のFAX送信サービスを利用して10分で送信完了

（メール送信件数80件（不着5件）、FAX送信件数61件（不着6件））

・保護された徘徊者が体調不全であった場面を設定して消防署職員が訓練参加

##### ○訓練参加者・団体等からの意見

・「行方不明になった時点で早期に連絡しても問題はない」（練馬警察署担当者）

・「警察での保護後身元判明までに時間を要する場合や夜間保護時に区でも保護場所を確保して欲しい」（練馬警察署担当者）

・「本人への聞き取り・搬送などの対応時のために認知症に関する情報をわかる範囲で知らせて欲しい」（練馬消防署担当者）

・「発見後安全に保護されるまでの発見者の適切な対応が必要である」（主催者）

・（声かけについて）「後ろから声を掛けられると不安を感じる」（徘徊役）

・「サポーター養成講座に声かけのポイントを取り入れるなどして対応のノウハウを周知することが必要」（主催者）

### 今後の検討課題及び取組み

#### ○ネットワーク参加団体の拡充

・コンビニエンス・ストア、薬局（薬剤師会）、医療機関、郵便局、タクシー会社、等について協力依頼

#### ○情報伝達機器・体制についての検証

・FAX送付後、相手方の情報の認識状況

・FAXやメールにより情報を配信した際に、配信不能となった事例についての原因究明

#### ○ネットワーク参加者との取り決め・情報更新

・ネットワーク参加者との個人情報の取扱い・管理に関する協定内容の具体化

・ネットワーク参加者の登録内容の更新方法

#### ○個人情報の取扱いについて

・適用法令及び取扱基準の明確化

### 今後の区の実施

平成21年度から認知症高齢者支援ネットワーク事業を実施し、模擬訓練での課題を整理し、区の施策として徘徊高齢者の発見・保護ができる仕組みを構築する。

## 検討目的

モデル事業における取組のひとつである認知症同士のネットワークづくり事業の一環として、家族会の現状を把握し、課題整理や支援策について検討する。

## 練馬区

### 検討手順

家族会代表者との懇談会 → コーディネート委員会（家族会代表者からのヒアリング＋課題の抽出＋支援策の検討） → 行政の支援策の検討（第4期介護保険事業計画の検

### 家族会代表者からのヒアリング

（活動内容）

定期会合、会報発行、勉強会・施設見学の実施

（参加動機及び効果）

- ・情緒的、精神的安定を求めて参加する介護家族が多い。
- ・すぐに問題を解決したいと思っている家族が多い。

（課題）

- ・家族会の存在そのものを知らない人に対する啓発活動の推進、
- ・既存の家族会の継続的支援（例：場所、人、資金）
- ・家族が会合に参加するための「お出かけ支援」や「見守り支援」等の提供があれば参加できる家族が増える。

### 「認知症コーディネート委員会」で出された意見

- ・身近にいける家族会が欲しい。
- ・広報誌への掲載、チラシ配布の他、ケアマネジャー、医師、地域包括支援センター職員等の口頭による周知を期待する。
- ・家族会の存在を知らない人が増えている。
- ・若い人はインターネットで「家族会」を検索し、ホームページを見て連絡がくる場合があり、今後インターネットによる家族会が設立される可能性もある。
- ・家族会の運営では、場所と資金の不足という問題がある。保健所や公的機関が場所を提供してもらうことが必要
- ・参加者の高齢化が進んでおり、家族会の存続のためにも若い人に参加して欲しい。
- ・「家族会」のことをよく知らない家族は参加するまで迷いが生じ、参加するまでに時間が掛かることが多い。初回は紹介者が付き添うなどの配慮が必要。

### 今後の区の実施について（第4期介護保険事業計画素案より）

- ①新規家族会立ち上げ支援
    - ・勉強会およびつどいの開催（学習・情報交換・交流を通し仲間作りを促進し家族会立ち上げの準備を行う）
    - ・家族の会を支援するボランティアを養成
    - ・家族会の運営支援（場所の確保や運営支援など）
  - ②既存の家族会に対する継続支援
  - ③新規家族会と既存家族会同志とのネットワーク構築
- （2）見守り支援事業  
認知症の方の話し相手や留守番などの介護保険外サービスでの支援の活用によ

## 多摩市

### 検討手順

市内介護者の会へのヒアリング→コーディネート委員会での議題提供→課題の抽出＋支援策の検討

### 現存する市内の家族会及び市との連携状況

- ・認知症介護者の会「いこいの会」、病院や施設単位の家族会（3ヶ所）
- ・「いこいの会」から意見を取り入れて市主催の認知症勉強会「あしたの会」を年6回実施

### 代表者からのヒアリング

（活動内容）

定期会合及び会報発行（1ヶ月1回）、ブログ作成、電話相談の実施、学習会・情報交換会の実施

（参加動機及び効果）

- ・認知症初期、中期、後期でそれぞれに悩みが違っているので、初期の人は後期の人の体験を聞いて、よいと思ったものを自分の介護に取り入れるなど、自分で対処の方法を選べる場になっている。
- ・家族だけで話をするので、失敗談などについても気兼ねなく発言できる。

（課題）

- ・若年性認知症に対応した活動をしている家族会が地域にはまだない。
- ・他市から参加する方もおり、近隣地域の家族会とも連携する必要がある。
- ・会合の参加者が20人を越えており、情報交換が充分に行えていない。

### 「認知症コーディネート委員会」で出された意見

- ・介護で大変な思いをしていますが、定期会合に参加しているときは明るく話をしていてとてもよい場になっている。
- ・介護者の会を現在支えているのは、介護を卒業した人である。
- ・核になる人がいない。若い世代の参加を期待するが、介護者の会だけでなく、NPOも含めて組織の世代交代は厳しいのが現状である。
- ・活動の拠点が必要である。
- ・モデル事業の模擬訓練に介護者の会の会員が参加することにより、若い人を含めて介護者の会の存在を知ってもらうことができた。
- ・介護者の会を開催する上では、会場の確保、会員への連絡などのサポートは有効。ボランティアには、会場の確保の担当、会員への連絡担当というように担当を細かく分けるなどの工夫をすれば参加しやすい。
- ・社会福祉協議会のボランティアセンターを活用した人的支援は可能。

### 今後の市の実施について

- ・モデル事業の成果として得られた地域の人的支援と介護者の会とをネットワーク化し、新たな拠点づくりを図るための、市による運営支援や活動場所の提供による支援

## 認知症支援拠点モデル事業の取組状況

資料 4

平成21年1月末現在

事業者名	事業名	事業内容	実績及び今後の取り組み
グループホームかたらい (認知症対応型共同生活介護) 世田谷区・(NPO) 語らいの家	あんしん生活マップ	事業者が主体となり、認知症サポーター養成講座で募った7名のボランティアの協力を得て、地域の認知症サポーター、認知症の人が安心して買い物が出来る店舗、認知症をサポートできる医療機関等の所在地を掲載したマップを作成し、認知症の人や家族に配布	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7月商店街の振興組合理事長の店舗を訪問、事業者が作成した「しんせつシール」について説明</li> <li>・8月、理事長、振興組合理事会にてシールの趣旨について説明、賛同得られず</li> <li>・9月、理事長同行のもと、71件の店舗を巡回、シールの説明と配布を実施(29件の貼り付けを確認)</li> <li>(今後の取り組み)</li> <li>・商店街におけるシールの貼付状況の確認調査</li> <li>・マップの作成</li> <li>・あんしんすこやかセンター(地域包括支援センター)と連携してマップを共同作成することの検討</li> <li>・商店街の人たちを対象としたサポーター養成講座の実施を検討中</li> </ul>
	サロン日ようび	日曜日休業のデイ・サービス施設を活用し、認知症サポーターをボランティアとして、また専門職や看護師等を配置したサロンを実施(軽度の方を対象に2~3時間程度預かる様な事業を想定)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1月末現在主な利用者は3名</li> <li>・認知症の症状は重い方と軽い方が混在</li> <li>・デイサービスの補足的な機能果たず(家族の認知症のケアに関する相談、デイサービスが定員オーバーの際の利用等)</li> <li>(今後の取り組み)</li> <li>・認知症サポーターをボランティアとして活用すること(現在1名参加)</li> <li>・地域の方が気軽に相談できるサロンを目指していく</li> </ul>
	家族会の開催	デイ・サービス施設や地域の区民集会所を使い、月1回程度専門の医師等を招いて介護相談等を実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月1回開催(精神科医師、臨床心理士が相談対応) 4~6名が参加。</li> </ul>
	認知症勉強会と体験学習	グループホームに近隣の小中学生を受け入れ、認知症の方との触れ合いを通して、福祉への関心を高める	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8月に世田谷区立上祖師谷中学校4名、9月に世田谷区立船橋中学校4名を3日間受け入れ、認知症サポーター養成講座と現場体験を実施</li> <li>・9月に地域住民対象の認知症勉強会を開催 参加者40名</li> </ul>
グループホームなごみ方南 (認知症対応型共同生活介護) 杉並区・(株)大起エンゼルヘルプ 〈ケア24(地域包括支援センター)方南併設〉	会食会(多楽福会)	事業者が毎月1回グループホームに地域の方を招き会食会を開催、認知症の勉強会やグループホームについての説明会、区の保健師や地域包括支援センター職員も招いた相談事業を併せて実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月1回程度実施(1月末までに9回実施済み)</li> <li>・食事づくりはボランティア(サポーター)を募って対応、職員は一般参加者と入居者との橋渡し役に専念</li> <li>・ボランティアに対する研修会を実施(栄養士…食事づくりを指導、保健師…認知症について講義、歯科衛生士…口腔衛生について講義)</li> <li>・参加者 各回30~40名</li> </ul>
	地域交流(手作りプランターの設置)	施設の入居者・利用者と地域住民との相互協力により、近隣の通路や公園等へ手作りプランターを設置することにより施設と地域との顔なじみの関係をつくりあげること(材料は近隣の店舗、施設等からペットボトルを収集、近隣の保育園に色付けを依頼、近所の人や大学生に植え付けを依頼)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5月と10月に実施</li> <li>・1回目はプランターを近所に配布するだけであったが、2回目は近所の花屋さんの指導により、参加者が協働して、なごみの中庭に花壇を作り、近所の保育園の園児が作った看板を記念碑として設置。</li> <li>・プランター配布個数。(1回目300個、2回目150個)</li> <li>・参加者(1回目68名、2回目53名)</li> </ul>



事業者名	事業名	事業内容	実績及び今後の取り組み
至誠キートスホーム（介護老人福祉施設） 立川市・（社福）至誠学舎 立川 〈北部中さいわい地域包括支援センター併設〉	認知症支援ボランティア講座	地域で生活している認知症高齢者を理解し、支援の出来るボランティアの担い手を養成することを目的とする講座を開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内の地域包括支援センター主催の「認知症サポーター養成講座」の受講生を対象に11月に実施、参加者6名</li> <li>実施内容：介護体験報告、認知デイでの実習、ボランティア実践者の活動報告</li> <li>【アンケート結果】（回収5名） 介護状況）「介護当事者」1名、 参加活動）「介護に役立てたい」2名「ボランティア希望」1名 「認知症について知りたい」3名</li> </ul> （今後の取り組み）講座を継続して開催
	介護者教室	事業者が認知症高齢者の介護者を対象とした講演会や学習会を開催し、在宅介護者を支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>「男性のための認知症介護教室」を11月に実施 参加者：11名（男性介護者5名、女性介護者3名、ボランティア希望者3名）</li> <li>実施内容：講義、認知デイでの実習、介護体験報告と意見交換</li> </ul> （今後の取り組み）認知デイの家族会と合同にして介護者教室の開催（2月）
	認知症介護支援事例研究会	事業者が関係機関の専門職を対象に事例研究の機会を提供し、相互理解と関係者のネットワークの形成を促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>6月に実施（施設と施設外の介護支援専門員が2事例発表、30名参加）</li> <li>9月に実施（市内の居宅介護支援事業所の介護支援専門員が1事例発表、6名参加）</li> <li>11月に実施（居宅介護支援事業所のケアマネが1事例発表、15名参加）</li> </ul> （今後の取り組み） <ul style="list-style-type: none"> <li>医療関係者への参加の呼びかけ</li> <li>2月に実施予定</li> </ul>
	高齢者サロン活動	公民館や個人の家等を活用し、身近なところで見守りや交流の場を実現するためのサロン活動を支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>「高齢者サロン活動入門講座並びに意見交換会」を1月に実施（参加者：25名（うち報告者6名） 実施内容：報告及び意見交換）</li> </ul>
	認知症に関する地域懇談会の開催	認知症の人を支える仕組み作りを目指して関係機関の相互理解と情報交換のための懇談会の開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>11月と12月に社協主催の幸町地域懇談会に参加。地域課題について意見交換</li> <li>「認知症の人を地域で支える」をテーマにフォーラムを1月末に開催（今後の取り組み）</li> <li>認知症に関する課題を取り上げることを提言</li> </ul>
地域ケアサポート福わ家 （小規模多機能型居宅介護） 〈青梅市、(有)心のひろば〉	認知症緊急時対応サービス	事業者が24時間対応の認知症相談窓口（相談対応職員1名）を設置し、依頼があれば訪問サービスを提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>1月末実績…相談件数131件、訪問件数47件(20年度累計)</li> <li>地域包括支援センターとの連絡会を5月から毎月開催</li> <li>市の高齢サービス案内誌に10月に掲載され、その後件数増加</li> <li>専用のアセスメントシートと個別支援計画の書式を作成した。</li> </ul> （今後の取り組み） <ul style="list-style-type: none"> <li>一定期間、計画的に関わって課題解決を行う必要のある相談事例について、目標と援助終了のタイミングについて定める。</li> <li>広報活動の強化と24時間対応可能体制の構築</li> </ul>
	認知症かいかえ支えあう家族の会はあーとサロン	介護家族が、センター方式を活用し認知症の理解を深めることで精神的負担を緩和し、家族介護の質の向上を目指し、事業者がサロンとして場を提供する（小規模多機能型居宅介護の家族と外部の在宅介護者との共同開催）	<ul style="list-style-type: none"> <li>月1回開催（9回実施 延べ32人参加 うち公開講座参加者13名）</li> <li>10月は介護家族以外の一般市民向けの公開講座として開催(近隣住民へのポスティング、ポスターの掲示、市報で広報)</li> </ul> （今後の取り組み） <ul style="list-style-type: none"> <li>青梅ネット代表者と共同でサポーター養成講座を実施</li> <li>公開講座に参加した介護家族に通常への家族会への参加を呼びかけていく。家族会の内容も情報提供や勉強テーマを設定していくことでリピーターを増やしていく。</li> </ul>

事業者名	事業名	事業内容	実績及び今後の取り組み
地域ケアサポート福わ家 (小規模多機能型居宅介護) <青梅市、(有)心のひろば>	教育・啓蒙活動	事業者が地域住民への啓蒙用のテキストとして活用できるパンフレットを作成し地域の関係機関に配布	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケアマネ向け勉強会を3回実施(計94名参加)</li> <li>・郵便局・青梅消防署に認知症高齢者に関して協力要請、出張講座利用を呼びかける</li> <li>・地元スーパー・近隣診療所にチラシ・パンフを配布</li> <li>・近隣住民との交流(グランドゴルフ参加など)</li> <li>・12月に地元自治会との交流会を開催</li> <li>・1月にケアマネ連絡会で講演</li> </ul>
グループホームきずな(認知症対応型共同生活介護) <日野市、(社福)創隣会、在宅介護支援センターあいりん併設>	認知症理解促進事業	事業者が認知症サポーター養成講座や認知症予防についての出前講座を実施して認知症に関する理解を促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出前講座(1月末現在 8回実施 サポーター養成講座183名受講)(※19年度からの延数 16回実施 サポーター養成講座450名受講)</li> <li>・老人会や自治会対象のサポーター養成講座は地域包括、企業や学校対象のサポーター養成講座はきずなの役割分担で実施(今後の取り組み)</li> <li>・日野市のサポーター養成目標1,700人 12月末現在1,291人養成</li> </ul>
	ネットワーク会議	地域の関係機関に対する事業の周知と情報の共有化を図ることを目的として、地域包括支援センター、在宅介護支援センター、居宅介護支援事業所等の関係事業機関との連絡会議を事業者が主体となって開催(市との事業検討会の開催日に併せて開催)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2ヶ月に1回(偶数月に)開催(1月末現在5回開催)</li> <li>・ネットワーク会議のメンバーには事業検討会の構成員である日野市高齢福祉課職員2名も参加</li> <li>・12月に「認知症高齢者の医療と介護の連携について」というテーマで、開業医の医師をゲストに迎え、地域医療と介護に関する情報・意見交換を実施</li> </ul>
	認知症高齢者を介護する家族会	事業者が主体となり地域で認知症高齢者を介護している人たちによる家族会を結成し、定期的な会合を開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>・偶数月に開催(1月末現在 5回開催 延34名参加)</li> </ul>
	認知症高齢者在宅マップ作り	事業者が地域内の在宅で生活している見守りが必要な認知症高齢者の情報の共有化を図るためのマップを作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族の同意を得た方(現在1名)の「パーソナルマップ」の作成を検討</li> <li>・過去の徘徊時に発見された場所、発見時に協力してくれた方の住居を掲載</li> <li>・地域の民生委員や、高齢者見守り支援ネットワーク関係者の情報を掲載</li> <li>・1月末に暫定版完成(今後の検討)</li> <li>・パーソナルマップの配布先</li> </ul>
	認知症高齢者の実験的就労デイ	事業者が認知症高齢者に対応可能な作業を用意して仕事に従事する役割を提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎週開催 34回開催 延253名参加 (H20.6月以前は隔週開催)</li> <li>・1月末現在利用者は11名(男性6名、女性5名)(プログラム…洗車、清掃、日曜大工、和菓子作り、製本・切手きり・雑巾作り、アームカバー・ふきん作り 報酬…食事、嗜好品)</li> <li>・ひのケアマネ協議会を通じて募集(今後の取り組み)</li> <li>・事業化へ向けた検討</li> </ul>